

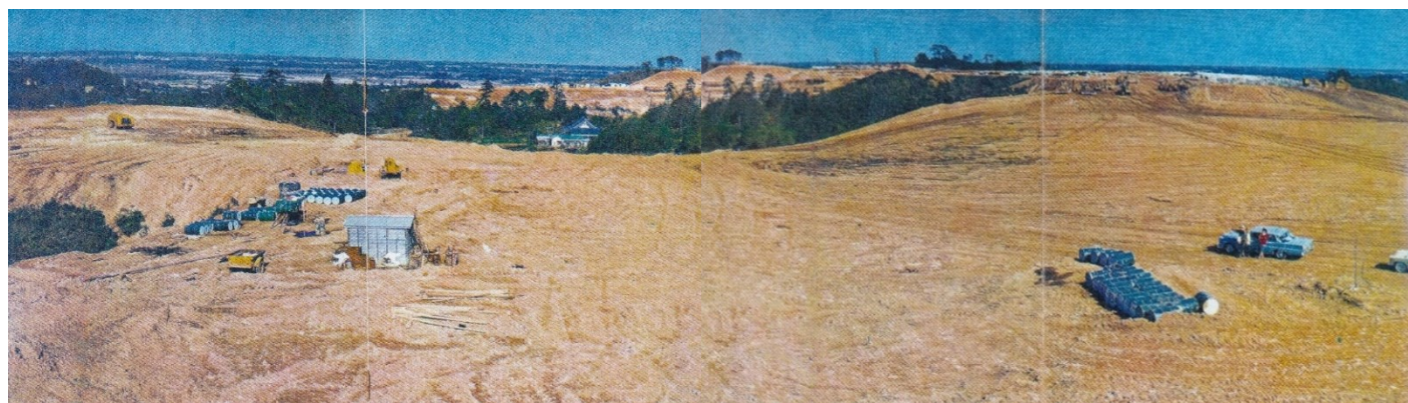
桜ヶ丘 いまむかし

第1回 「私たちのまち」桜ヶ丘のはじまり！

桜ヶ丘住宅地が出来て60年になります。
 約76ヘクタールの地に現在約3,000世帯6,000人余りが住む住宅地になりました。
 地域が成長するように人々も弛まず生きてきました。この街の繁栄と変化を追ってみたいとシリーズを計画しました。
 そこにはまず、敗戦後東京の大規模宅地開発に託した、京王電鉄・当時の井上定雄社長の、「恵まれた自然環境の中に新しい設備を取り入れ、距離的にも都心と直結する理想の田園都市を作る」という夢と希望がありました。

【造成中の桜ヶ丘】☆

分譲パンフレット「KEIO SAKURAGAOKA FOR SALE IN LOTS」より



「みどりに映えるドライブウェイ そよ風はにおいながら
 頬をなでゆく 秩父連山がはるかにかすむ・・・」
 分譲地売り出しのパンフレットにはこんな謳い文句がありました。

【建設中の桜ヶ丘住宅】◎



1960(昭和35)年頃 ★

【当時の聖蹟桜ヶ丘駅】★



1961(昭和36)年
 聖蹟桜ヶ丘駅舎

現在の東口、
 聖蹟Uロード入口
 を少し入った辺り
 にありました



1961(昭和36)年
 多摩川を渡る電車



1969(昭和44)年 建設中の高架駅

【こどものくに】◎



1965(昭和40)年頃

「こどものくに」公園、現在の「いろは坂桜公園」は桜ヶ丘団地の子ども達の定番の遊び場でした。いろは坂通りではなく、現在の4丁目42番辺りの北側斜面を歩いて通っていました。
 画面左側奥には京王ガスのガスタンクがありました。そのタンクと4丁目46番の間には小高い山、通称「ゲンコツ山」がありました。
 現在は人が入る事ができない北斜面が遊びの場であり沢山の思い出を作った昔はワンパクだった面々！今はそのお子さん・お孫さんたちもまた楽しい思い出を作っています。
 現在の桜ヶ丘地域には1丁目に原峰公園・霞ヶ関公園、3丁目にさくら公園・東寺方公園、4丁目にとりで公園があります。

昭和35年より開発工事、37年4月第1回売り出し開始、昭和40年4月宅地販売終了。
 そして現在まで。社会の変革の中、この街にも様々な変化や発展がありました。当時の京王電鉄井上社長の夢と希望はかなえられたでしょうか？

住みよい宅地を保つための必須条件は住民自身の街への愛情、積極的な関心ではないでしょうか！地域への愛情！そこで生きて時を紡いできた人々のそれぞれの思いが、リレーのバトンのように次々と受け継がれていったらと願うばかりです。

皆様からのご意見や情報を頂けたら幸いです。

シリーズ出発にあたり、早川泉様 嶋野一郎様に情報提供や種々ご協力を頂きました。

資料提供：◎多摩市所蔵「多摩の郷土写真」、★京王電鉄株式会社、☆嶋野一郎氏

